

保育士の就労に関する調査及び意見・アイデア募集

フィードバック

ユースプランナーの皆様からいただいた意見・アイデアについて、道の担当者よりお答えさせていただきます。

問6 北海道で保育士を志望する人を増やすための意見・アイデアがあれば教えてください。
(自由記述)

【賃金関係】

- ・給料を上げる。
- ・給与、賞与の増額。
- ・労働に見合う給料に設定する。
- ・保育者という職業全体の賃金を上げる。
- ・給与形態をもう少し見直した方が良いと思う。
- ・まずは給与を上げることが最優先だと考えます。
- ・保育士、幼稚園教諭の初任給は上がったが、その後の上昇が少ない。全職種の平均月収に近づけられるよう取り組むべき。
- ・やりがい等のアピールを行っても給与があまりに伴っておらず、魅力を感じる人が少ないため、実際に保育士の給与を上げ、低給与のイメージを払拭する必要がある。
- ・入学者が減少している理由として、少子化による高校卒業者の減少も一因だとは思いますが、女子のなりたい職業としては今でも一定のシェアがあるように感じる。進路を選択する際に賃金等のギャップを感じてしまい、進路を変更するケースがあると思う。
- ・保育士はもちろんのこと教員なども含まれると思うが、仕事に相応する賃金がそもそも見合っていないし、「ブラックな仕事」という印象がついてしまっているために、不足してしまっていると思う。もっと大きな改革をしないと、解消されることはまずないと思う。
- ・仕事内容や、子どもたちの命を預かっているという責任に対しての給料が低いと感じる。

【北海道庁から】

保育士を志望する人を増やすための賃金関係について、勤務内容に見合っていないというご意見を多くいただきました。

保育士の賃金の改善については、これまで国において賃金水準の改善が行われてきましたが、依然として全職種の平均賃金よりも低いことから、国に対して保育士の賃金が全職種と変わらない水準となるよう、改善を要望しております。

また、「ブラックな仕事」という印象については、保育の現場が意欲ややりがいをもって働くことができるよう、道としても、具体的な取組を関係者と検討するとともに、制度改革が必要なものについては、国に対して要望していきたいと考えています。

【就労環境】

- ・ 休みを増やす、残業減らす。
- ・ 事務作業を専門にする事務員を配置し、雑務を減らす。
- ・ 保育士1人あたりが見る子どもの数を減らして保育士の負担を減らす。
- ・ 保育士になって自分のスキルアップや向上心を持てる環境が大事だと思う。いくら子供が好きだからといっても毎年毎年変わらず同じ仕事をし続けるにはモチベーションが維持できなさそうだった。
- ・ 子どもが使う画用紙や折り紙を切って用意する場面では時間がとてもかかるため、時間短縮できるよう工夫をしたり、保育士を支援する職があれば良いなと感じた。
- ・ 人材不足の改善のため人数を増やす。
- ・ 子供の命を預かるという内容に対して残業が多く保障が十分で無いことが世の中に浸透しているので、この意識改善がなされる必要がある。子供の減少により、保育園、幼稚園の経営が難しいと思われるので改善していく必要がある。

【北海道庁から】

就労環境について、残業を減らすことや保育士を増やすことといったご提案をいただきました。

保育士の確保が課題となっている中、国は、一定の要件を満たす子育て支援員を保育補助者として配置することを可能としたところであり、こうした補助者は、保育士の負担軽減のための重要な役割を果たしています。

また、保育士のモチベーションを維持するため、国はキャリアアップ構築の仕組みを作っています。キャリアアップ研修の受講により、本人のスキルアップにつながることから、できるだけ多くの方に研修を受けていただきたいと思います。

次に、道ではこれまで保育士の負担軽減を図るため、保育所等において子どもの年齢と人数に対して必要な保育士の人数を定める職員配置基準の見直しを国に要望してきましたが、昨年12月に決定した「こども未来戦略」において、制度発足以来75年間一度も改善されてこなかった4・5歳児の職員配置基準が改善されることになりました。職員配置基準については、保育所等の運営状況や地域の実情に見合った見直しを図られるよう、今度とも、国の動向を見極め、適正数となるよう国に対して要望していきます。

こうした取組を着実に進めつつ、保育士の働き方改革についても園に働きかけるなど、勤務状況

【金銭的な支援】

- ・住宅補助や未就学児を自分の園に少し安く預けられる制度などが充実すると良い。
- ・助成金制度を創る、指定された保育園・幼稚園で就職すると学費が免除されるなどの制度があると良い。

【北海道庁から】

住宅補助や指定された保育所に就職した場合の学費免除などについてのご提案ですが、道内のいくつかの市町村においては、保育士宿舍借上支援事業などの国の制度を活用しながら、保育士の住宅確保の支援を図っております。

また、道では、保育士修学資金貸付制度を実施し、道内の保育士を養成する学校の学生に対し貸付けを行っており、札幌市を除く道内の施設に5年間従事すれば返済が免除となります。

【学生等への啓発】

- ・保育士になるメリットや魅力をアピールする
- ・養成校から中学校・高校にアピールしに行く。
- ・市の広報誌などに保育士へのインタビューを載せた欄を作る。
- ・小中高校生のときに保育所見学など、乳幼児と関わるができる機会をつくり、子どもやそれに関する職業に興味を持ってもらう。
- ・幼児の頃の憧れを高校卒業まで継続することは難しく、視野が広がってくる中、原点に帰って保育士という職を選ぼうとする人が少ないと感じるため、進路を選ぶ彼らに直接伝えに行くことが効果的だと考える。
- ・保育士という仕事について知ってもらうために、学校等で教える時間を1時間でも作れば増える可能性はあると思う。
- ・公立の学校（北海道大学など）の教育学部において保育士の養成ができるような仕組みづくりや、保育園などへのボランティアを推進するなどの対策ができるかもしれない。

【北海道庁から】

学生等への啓発について、たくさんのご提案をいただきました。

保育士として働くことの魅力を積極的に発信していくことは、道としても必要性を感じており、今後、効果的な情報発信について、保育士養成施設などの関係者とも意見交換を行いながら、具体的な取組を進めていきたいと考えております。

【その他】

- ・ 保育士の社会的地位の向上。
- ・ あまりよくないかもしれないが、保育を学ぶことで他職業にこんなふうにかせるなどがあると少し興味を持ちやすいかもしれない。
- ・ 保育者としての職業の専門性を上げることも必要だと思う。「保育士は簡単になれる上に給料が少ない」というイメージが強いので、まずは給与を上げ、競争率を高めてから資格取得のための筆記・実技試験などを導入するなどの改革が必要だと考えます。
- ・ 北海道の魅力を活かした保育園を増やし、そのことを発信する。例えば、自然と触れ合えるような取り組みを増やしたり、観光客が多いことから外国語活動を増やしたりするなどがある。
- ・ 実際に保育士として活動している方達をテレビ等のメディアで報道する。悪いイメージばかりを報道してしまっているため保育士という仕事にマイナスなイメージが付いてしまっている。

【北海道庁から】

その他、保育士と働くことの専門性を上げることやメディアへの発信についてなど、多くのご意見をいただきました。

これらの意見を参考とさせていただき、今後、道として効果的な保育士の魅力発信について、保育士養成施設などの関係者とも意見交換を行いながら、取組を進めていきたいと考えております。

問7 北海道内で保育士の方に同じ職場で長く働いてもらうための意見・アイデアがあれば教えてください。(自由記述)

【就労環境】

- ・ 福利厚生を充実させる。
- ・ 事務作業の簡略化、分担。
- ・ 職場の雰囲気をよくする。
- ・ 仕事の負担が少なくなるようにする。
- ・ 人間関係を含む職場環境を良くする。
- ・ 有給などの事前申告の休暇や、体調不良や育児・介護などの突然の遅刻や早退などを含めた休暇を取りやすい環境をつくる。取れるような人数・仕事配分の仕組みをつくる。
- ・ 労働環境の改善。指導が入ると良い。人間関係等もコンサルタントのような位置づけをつくり、園全体で仕事場の人間関係を円滑にしようという取り組みがあれば続ける人も多くなると感じる。
- ・ やはり女性が多い職場なので人間関係のいざこざが多くなって職場を変える人がいると思うので面談の制度など導入したらいいと思う。
- ・ 保育現場の風通しの悪さも起因しているのかもしれない。さまざまな媒体を使用して各保育現場の内部などを可視化することで、風通しのいい現場となり、一定の効果があると考える。
- ・ 労働環境については賃金を上げるほか、ワークライフバランスに配慮するなどの対策が考えられる。
- ・ 保育現場で就労を始めた後に労働環境と賃金にギャップを感じて早期退職したり、結婚や出産を機にそのまま復職しない例が多くあると考える。理想とのギャップを埋めるために、全体的に労働環境を改善することが必要で、それが保育士養成校の入学者を増やすことにもつながると考える。
- ・ 月に1回程度の面談等を行い、労働環境改善に取り組む。面談をして満足してはいけない。確実に改善をしていかなければ長く働いては貰えない。
- ・ 小学校などと同じように、何年かごとに同じ系列の保育園の中で異動して環境を変え、ストレスがたまらないようにする。
- ・ 有給休暇を取りやすくしてもらえるなど保育士のメリットがあるような制度があれば良い。

【北海道庁から】

保育士の方に長く働いてもらうため、職場環境の改善について多くのご意見をいただきました。

休暇を取得しやすい環境づくりや風通しの良い環境の整備といった保育士の職場環境改善については、道としても早急に対策が必要であると考えており、保育士の働き方改革についても園に働きかけるなど、勤務状況の改善を図っていきます。

【賃金関係】

- ・ 給与の増額、待遇改善。
- ・ 給与の上昇幅を上げる。
- ・ 仕事と賃金、個人の時間を増やすこと。
- ・ 公務員のような年数が長いと給料が上がるなどの工夫をする
- ・ 初任給を上げるのではなく、給与の上がり幅を上げる。
- ・ 仕事内容にあった賃金や手厚いサポートがあれば、長く働ける。
- ・ 配置基準の見直しなど、働きやすいような環境づくりに力を入れていることをPRする。

【北海道庁から】

長く働いてもらうためには、賃金の改善が必要であるというご意見をいただきました。

保育士の賃金については、これまで国において賃金水準の改善が行われてきましたが、依然として全職種の平均賃金よりも低いことから、保育士の賃金が全職種と変わらない水準となるよう、国に対して改善を要望しております。

また、働きやすい環境づくりについては、保育の現場が意欲ややりがいをもって働くことができるよう、道としても、具体的な取組を関係者と検討するとともに、制度改革が必要なものについては、国に対して要望していきたいと考えています。

【その他】

- ・ 就職、職場復帰のハードルを下げる
- ・ 給与等以外に「北海道」ならではのなにかがあると魅力的かも
(ex ホタテが取れるところは無料でホタテが貰える)
- ・ 男の人が保育士になると偏見的に、将来が心配や、どうやって生活しているの?のような印象を世間から持たれる問題と、男の人に預けるのなんか心配のような確証がないバイアスが蔓延しているので、バイアスを取り除く情報発信をするなど、男の人でも働けるような環境をつくる。
- ・ 今はすごく保育士のイメージが良くないことが多いと思う。給料が少ない、責任が重い、親との関わりなど、ニュースや事件などからそのようなイメージに繋がっていると思う。もっとやりがいや将来性のあることを紹介したりし、イメージを変えることが大事だと思った。
- ・ 保育士が同じ職場に留まりにくい原因として、過酷な労働環境の他に、資格職業であるため次の職場を見つけやすい、パートナーの転勤、などが考えられる。パートナーの転勤については、同じ職場ではなくなってしまうが、スムーズに保育士を続けるための方法として、別の地域にある保育園同士の提携があると良いと考える。例えば、札幌市にあるA保育園と稚内市にあるB保育園が提携を結ぶとする。あるとき、A保育園に勤める保育士Cが、パートナーの転勤で稚内市に引っ越す事になったとする。通常であれば、A保育園を退職し、稚内に引っ越した後、稚内市で新たな職場を探し、必要な書類を作成して面接を受け、就職するなどの流れが考えられる。また、賃金もその職場の1年目として、低下することが考えられるが、A保育園とB保育園が提携を結んでいれば、職場探しや面接などを省いたり、賃金もほぼ同額受け取れる可能性がある。これにより、全く同じ現場ではないが、保育現場で働く人材の確保につなげることができると考えられる。

【北海道庁から】

保育士のイメージが良くないのご意見をいただきました。

本来、保育士は子どもの成長に携わるやりがいのある職種であり、魅力の効果的な発信や働きやすい環境づくりについて、道としては、具体的な取組を関係者と検討するとともに、制度改正が必要なものについては、国に対して要望していきたいと考えています。

また、保育所間の連携については、保育関係者と積極的に意見交換するなどしながら、情報共有を図っていきます。

問8 北海道内の保育士の労働環境を改善するための意見・アイデアがあれば教えてください。

(自由記述)

【賃金関係】

- ・給料を上げる。
- ・保育士配置基準の改善。
- ・行政が最低基準を見直す。
- ・市や賃金による手厚いサポートが今以上に必要と考える
- ・賃金に関しては、重要な課題として増額をするなどの対策を取ると良いと考えられる。
- ・給料が上がらない限り保育士は増えることはないと思うし、この状況が続くと保育士人口が減っていく一方だと考える。子供が好きなどの理由で目指している人は数え切れないほどいるが、就職となると給料や労働内容、将来の自分を考えると安定しないと考え、保育士を断念してしまう人が多い。このため、仕事内容に見合う給料を提示していけば増えるのではないかと考える。
- ・介護業界の賃上げ補助金が話題になっているが、保育士においても子どもの命を預かる重要性に見合うレベルに給与を引き上げていく必要がある。そのために、公が更に積極的に資金を投じる必要があると考える。

【北海道庁から】

労働環境の改善について、これまで同様、賃金の引き上げが必要だというご意見を多くいただきました。

保育士の給与については、これまで国において賃金水準の改善が行われてきましたが、依然として全職種の平均賃金よりも低いことから、国に対して保育士の賃金が全職種と変わらない水準となるよう、改善を要望しております。

職員配置基準の適正な見直しによる保育所等の運営費の基準である公定価格についても、運営実態や地域実情に見合ったものとなるよう、引き続き国に要望していきます。

【人員配置】

- ・ 人手不足を解消しなければ労働環境は改善されないと感じる。
- ・ 臨時の職員などを雇って、ひとつの保育園にいる保育士をなるべく多くする
- ・ 人手がないから他のところに影響も出ているように感じるため、可能かは分からないが賃金をあげる(他業種の給料の平均、または小中学校の教員の給料の平均に近いくらい)、残業が無くなるように ICT 化や手作り壁面などの削減を可能な限り徹底する、北海道独自で配置基準を見直す。
- ・ 保育園内に保育士の休憩所をつくる。子どもと離れた環境を作ることでストレスを減らす。
- ・ 残業時間や仕事を自宅に持ち帰るのを少なくするために、各クラスを受け持つ先生の人数を増やす。
- ・ 現場で働く保育士の増員をまず行うべきであると考え。人数がいれば休暇を取りやすくなり、同じ職場で長く働く人が増えると考え。

【北海道庁から】

人員配置についてご意見をいただきました。

先ほど、保育士1人が子どもを何人まで保育できるか定めた職員配置基準について述べたところですが、保育士配置の見直しや保育補助員の活用が求められているところであり、道としても引き続き、国に対して、配置基準が適正となるよう要望するとともに、保育所等を所管する市町村に対しても、保育補助者の活用を促していきます。

【就労環境】

- ・ 近隣の小学校と連携を取って年に何度か園に来てもらう機会を設けるなど、外部の人が保育園に入る機会があることで第三者の目が入り労働環境の改善につながるのではないかと考える。
- ・ 民間と協働で保育を行うなども良いのではないかと考える。例えば、民間と保育士をバランスよくミックスさせることで、保育士は「スペシャリスト」として、民間からの派遣は「ゼネラリスト」として保育現場で活躍できるのではないかと考える。

【北海道庁から】

他機関との協力についてのご意見をいただきました。

全国的に保育士不足が深刻であり、特に人口が減少している地域では、人員確保が難しい状況であることから、保育団体や市町村との協力による労働環境の改善と保育人材の確保について積極的に意見交換を行い、確保の課題を共有していきます。

また、保育所間の連携については、保育関係者と積極的に意見交換するなどしながら、情報共有を図っていきます。

【その他】

- ・ 保育学部などの短期大学生などに給与を出して、アルバイト形式で長期的に実践経験を積ませることで、人手不足は解消できそうだが、責任問題が発生するので、その兼ね合いを調整する必要がある。仕事が休みで親が家に居るのに、土日も子供を預ける家庭が、シフトの増加などの現場問題を引き起こしているのをそこを改善する。
- ・ 専門指導者を呼び、保育士の負担を減らす。また保育園を企業の運営とし、事務作業を統合したり、企業のトップと園長を兼任することで園長の給料をカットすることができるため、保育士にあたる給料の割合が高まる。
- ・ 誰かに相談することで、メンタルの健康に繋がるので、必要であれば専門の医療機関に繋げるなどの早期対処を行うことが重要である。対処が早ければ、一時的に休職したとしても、復帰する可能性も考えられ、結果的に保育士の人材確保に繋がると考えられる。
- ・ 保育士の労働環境が過酷だと言われる原因には、賃金の低さ、職員同士の人間関係や子ども（園児）の家庭事情によるストレスが考えられる。職員同士の人間関係や子ども（園児）の家庭事情によるストレスについては、カウンセラーの設置が良いと考えられる。カウンセラーを設置したとして、残業等により通うことが難しければ、夜間帯でも窓口を開いたり、電話で相談できるようにすると良いと考えられる。子ども（園児）の家庭事情については、後に虐待や子供の非行に繋がる可能性も考えられるため、カウンセラーだけでなく、専門の医療機関や児童相談所、ソーシャルワーカーなどの専門職種との綿密な連携が必要であると考えられる。保育士に限らず、このようなストレスは、一人で悩みを抱えることで生じるため、それを連携により解消してゆくことが重要である。

【北海道庁から】

労働環境を改善するために様々なご意見をいただきました。

まず、専門指導者による労働環境改善について、休暇を取得しやすい環境づくりや風通しの良い環境整備といった保育士の職場環境の改善は、道としても早急に対策が必要と考えており、保育士の働き方改革についても園に働きかけるなど、関係機関とも連携しながら取り組みを進めていきます。皆さんからのご提案は関係者と共有させていただきます。

～ご回答いただいたユースプランナーの皆様～

たくさんのアイデアやご意見をいただき、ありがとうございました。